

～次世代の中小企業経営を熱く語らう～

GARYU KEIEI

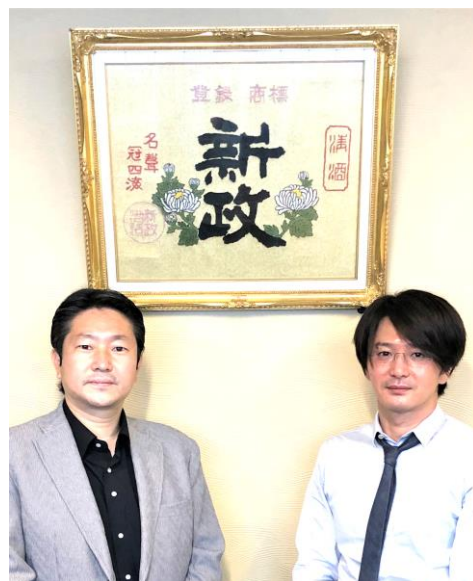
我流経営

JSBA対談 Volume.1 (2022.4)

新政酒造株式会社

代表取締役 佐藤 祐輔

Yusuke Sato



新政酒造本社 佐藤代表（右） JSBA代表高松（左）

量産はしない、伝統的な酒造りを追求する！

■聞き手 JSBA代表理事 高松健

高松 今では新政の代表的な日本酒「No.6」をはじめ、世界的にも評価が高い日本酒を造られています。一番苦労されたことは何ですか？

佐藤 いろいろありましたが、新政を引き継ぎ自分の理想の酒造りは時間も手間もかけなければならず、既存の従業員の大半が離れて行ってしまい、一時は従業員が数名になった時が一番悩みました。本当にノイローゼになるかと（笑）今は若手の従業員が大半で、20代、30代の社員が中心となって頑張ってくれています。

高松 それだけ真剣に酒造りに取り組んだと。

佐藤 はい、当時は普通酒としてスーパーなどで、いつでもどこでも買える酒でしたが、赤字が続いていたため、純米酒として美味しい酒造りを追求しなければならないと思っていました。川反の新政ゲートの文字も、元々は「清酒 新政」でしたが、今は「純米酒 新政」に変えました。先代からは大反対されましたが。

高松 今はなかなか手に入らない日本酒になりましたが、新政に慣れ親しんだ地元の方々の反応はどうですか？

佐藤 最近は御理解いただくようになりました。以前はいつでもどこでも買えたお酒でしたが、今は量産するより、本来あるべき伝統的な手法で酒をしっかりと造ることが大切だと考えているので、どうしても製造量が少なくなり、卸の販売形態も変えざるを得なくなりました。

高松 地元の方から直接購入したいと言われませんか？

佐藤 はい、でも正規ルート以外絶対に売りません！（笑）

高松 東大卒からジャーナリストとなり、新政8代目として蔵を立て直し「日本酒会のジョブス」として業界では知らない方はいない存在となれましたが、メディアにも積極的に出て若い方々に様々な情報発信をしていますね。

佐藤 真剣に良いモノづくりをしたいという方には、積極的にYouTube等で情報を配信しています。モノ作りは品質と共に、啓蒙活動にも力を入れ、価値を高める必要があると感じています。

高松 今後の展望について教えてください。

佐藤 新政はこれからも伝統的な酒造りを研究して、改良を重ねていきます。今取り組んでいるのは、酒を仕込む桶を全て秋田杉に作り替えることです。高級な秋田杉をこれだけ大きい桶に仕上げる職人さんも少なく地道な作業が続きますが、地元秋田で育った秋田杉で仕込んだ新政こそ、求めている本来の味だと思います。

高松 酒造りの原点に戻り、地道な研究と挑戦が価値ある新政の純米酒を支えていることがよくわかりました。本日はありがとうございました。



Cosmos コスモス
-秋櫻- 2021



No.6 ナンバーシックス
X-type



陽乃鳥（ひのとり）
第14世代

■対談先 新政酒造株式会社
秋田県秋田市大町6-2-35
寛永五年（1852年）創業

■発行 一般社団法人日本中小企業スマートビジネス推進協会 広報部
東京都千代田区平河町2-10-10
info@smartbiz.or.jp